



(三田)

兵庫・川除・藤ノ木遺跡

での二時期が中心である。このうち最も新しい時期の遺構は、掘立柱建物・溝・井戸・墓などから構成される屋敷地をなし、計九区画検出されている。

- 1 所在地 兵庫県三田市川除字藤ノ木・岸ノ上
- 2 調査期間 一九八七年（昭62）五月～一九八八年一月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 吉田昇・吉識雅仁・市橋重喜・山田清朝
甲斐昭光・高瀬一嘉

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

川除・藤ノ木遺跡は、三田盆地中央、武庫川によって形成された自然堤防上に立地する遺跡である。今回の調査は武庫川の河川改修事業に伴うもので、調査面積は約三六〇〇〇m²である。

検出した遺構は、弥生時代後期から古墳時代前半まで、古墳時代後期、平安時代後期から鎌倉時代前半ま

で、須恵器や土器類、横楋・木錘・横櫛・箸・折敷・曲物などの木製品が共伴している。また、須恵器碗には「田中」「東田中」と墨書きされたものが、各一点認められる。

8 木簡の釈文・内容

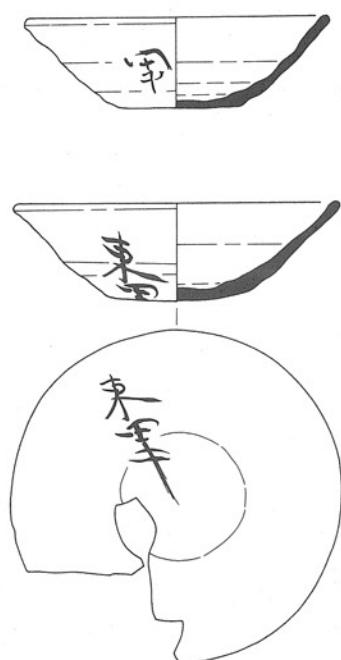
(1)

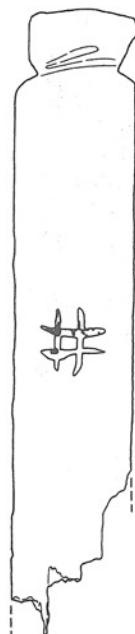
「く咄天罡（符籙）

「田中」

(186)×36×3 039

「東田中」





兵庫・板井寺ヶ谷遺跡

いたいてらがたに

所在地 兵庫県篠山市（旧多紀郡西紀町）上板井字寺ヶ谷坪

調査期間 一九八三年（昭58）一〇月～一九八四年一二月

発掘機関 兵庫県教育委員会

調査担当者 水口富夫・市橋重喜・岸本一宏

遺跡の種類 集落跡・粘土採掘跡・自然流路

遺跡の年代 後期旧石器時代、弥生時代後期～古墳時代前期、

平安時代末～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

板井寺ヶ谷遺跡は兵庫県東部の篠山盆地の北西隅付近に位置し、

標高約三〇〇mの興法寺山

から南東に張り出した微高

地上に立地する集落跡と、

その東側に入り込んだ谷状

地からなる。

日本道路公団による舞鶴

自動車道建設に伴い、一九

八三・八四年度に約七〇〇

○²mの発掘調査を行なつた。

頭部には両側から切り込みが入れられており、下部は欠損している。両面に墨書が認められる呪符木簡であるが、残存状況は良好ではなく、わずかに墨痕を確認できる程度である。材はヒノキである。

9 関係文献

兵庫県教育委員会「川除・藤ノ木遺跡」（兵庫県文化財調査報告一

〇四、一九九二年）

（山田清朝）



（篠山）